



この事業においては、これまで市民参加の観点を取り入れにくかった土木管理分野において、事業の企画段階から市民参加型のワークショップを複数回実施したことが大きな特徴であるが、そこに至るプロセスにも特徴があると同時に、何より担当部署に市民意見を大切にしたいという思いがあり、それが工夫となって表れている。

ポイント1 推進体制

・土木管理課や各土木事務所において、若手職員の意見を取り入れる工夫があり、それが、ワークショップの実施へとつながった。

・市内のプロジェクトチームを立ち上げた際に、

ポイント2 基本方針2 フェーズ1 フェーズ3

・多様な人から意見を聴きたいという思いが工夫につながり、ワークショップ参加者が安心して発言できる場となっていた。

・参加の呼びかけは、スマートフォンに詳しい人ではなく、地域活動に興味のある人を中心に行われた。また、ワークショップの名称を『〇〇アプリ』プロジェクトという、味の引くものにするなど、

ポイント3 基本方針1

・担当部署が市民のことを信頼しているという姿勢を示すと同時に、ワークショップの目的を丁寧に説明し続けた。その結果、「土木施設の市民協働型の維持管理」について、市民と担当部署とで共通認識を持つきっかけとなった。

・ワークショップにおいて、「予算も職員も限られている中で、

イメージ

～ICTを活用した市民協働による維持管理～「みっけ隊アプリケーション」

担当部署:建設局 土木管理部 土木管理課

事業概要

市民参加の観点での特徴

これまで市民参加の観点を取り入れにくかった土木管理分野において、事業の企画段階から市民参加型のワークショップを実施するなど、複数回に渡り、市民意見を直接聴き、市民ニーズを取り入れた。

市民協働型の公共土木施設の維持管理

京都市の道路や河川、公園等の公共土木施設は、

市民意見の聴取(アプリの開発)

<ワークショップ:『〇〇アプリ』プロジェクト>

- ・アプリの開発及び、「(仮称)市民協働で進める維持管理行動計画」に係る市民の意見聴取を行うため、要望件数の多い西部土木事務所及び伏見土木事務所管内をモデル地区で実施。
- ・地元自治会役員、PTA関係者、公園愛護協会会長、大学生、高校生、まちづくりNPO等、地域活動に積極的に参加されている方を対象に声かけを行い、各会場30名程度の参加。

- 第1回(平成27年10月5日(月)伏見区役所, 6日(火)右京区役所)「すてきな街って?」
 - ・どのような道路や河川、公園なら生活しやすい?
 - ・そのために自分たちにできることは?
- 第2回(平成27年11月5日(木)伏見区役所, 6日(金)右京区役所)「市民協働で維持管理を進めるためには?」「アプリ名の募集」
- 第3回(平成28年1月23日(土)右京区役所, 24日(日)伏見区役所)「アプリを使ってみよう」

(参考) 市内プロジェクトチーム

平成25年度に市内プロジェクトチームを立上げ、土木事務所のPRチラシや市民に維持管理について理解してもらうためカードゲームの作成を進めており、アプリの開発については、本プロジェクトチームから提案されたものがある。

<市内プロジェクトチーム 京の小路プロジェクト>

- 平成25年 土木事務所PRチラシの作成
- 平成26年 市民協働に係る取組内容の検討(カードゲームの開発、ICT活用の提案)
- 平成27年 アプリケーション開発に係る検討
- 平成28年 その他、市民協働に係る取組の具体策の企画・実施



アイコンについて:「第2期京都市市民参加推進計画 改定版」における、推進施策と推進体制を表します。

